

伊豆半島ジオパーク弁当

韮山高校写真報道部

キーワード：伊豆半島ジオパーク弁当，地学的ネーミングのおかげ，日本初のジオパーク駅弁，地域活性化

2018年秋、写真班を中心に伊豆箱根鉄道沿線とその周辺を含めた15市町20か所のジオスポットを部員自らがモデルとなって写真撮影し、さらに説明やクイズまで加えたステッカー20種類80枚を作成して車内に展示し、韮高と伊豆半島ジオパーク推進協議会のロゴをあしらったヘッドマークを付けた特別電車「ジオトレイン」を提案した。「ジオトレイン」は産官学コラボの特別電車として、2019年3月～9月末まで実際に運行し、メディアにも広く紹介された。

2019年春にジオトレイン運行が決まったが、それが半年間の期間限定であったため、その後も伊豆半島ジオパークに関わる活動として思いついたのが駅弁の開発だった。顧問である上杉剛嗣先生が長年個人的に交流を持ち、以前「まち・ひと・しごと新聞」の「韮山反射炉弁当」取材でお世話になった駅弁会社の桃中軒に打診したところ、快諾を得た。そこで部内にプロジェクトチームを設置し、全校生徒に、駅弁で使いたい伊豆半島の食材アンケートを取り、伝統的な伊豆の食文化である伊豆稲取の金目鯛の煮つけ、松崎の桜葉、中伊豆の伊豆鹿などを入れたおかげで、ジオパークらしく溶岩、柱状節理などの地学的なネーミングと見栄えを意識したメニューを桃中軒と一緒に考えた。

半島ジオパーク推進協議会監修のもと、ジオマップもリーフレットの中に入れ込んだ。



▲制作したリーフレット

産官学及び趣味である顧問の上杉先生の駅弁サイト「駅弁の小窓」との協働で開発した初のジオパーク駅弁として、2019年8月22日にお披露目会とニュースリリースを行い、8月末より1年間の期間限定で三島駅、沼津駅での販売（税込み1,200円）が決定した。



▲伊豆半島ジオパーク弁当（桃中軒ホームページより）

また、駅弁の掛け紙やリーフレット、お品書きにはジオトレインでも使用したジオスポットの写真を使用し、伊豆



▲お披露目会に参加した写真報道部員

韮山高校写真報道部：加藤大智・吉村彩・中谷成葉・星谷好花・吉田明夏・窪田倫香